

前立腺がん新治療法

医大と千葉大の研究チーム

副作用を抑え、効果的に



八木沼恵氏

福島医大と千葉大の研究チームは、放射性核種（放射性物質）の「アスタチン」を用いた新たな前立腺がんの治療法を開発した。がん細胞を強い破壊力でピンポイントに攻撃するアスタチンを、体内で安定化させる方法を編み出したことで、副作用を抑えた効果的な治療が期待できるという。

医大が5日、発表した。

医大泌尿器科学講座の八木沼恵助手(31)が筆頭著者と

なり、研究成果を論文にまとめた。

アスタチンが出す放射線「アルファ線」は破壊力が大きく、小さい範囲にのみ放出してがん細胞を狙い撃ちするため、高い治療効果が期待される。

一方、アスタチンは体内で不安定になり、副作用を引き起こす可能性が懸念されている。研究チームは、新たに開発した「ネオペンチルグリコール」という特殊な分子構造を持つ化合物を、アスタチンと結合させることで、体内でのアスタチンの安定性を大幅に向上させた。これまで前立腺が

んの標的治療に使われる薬剤は外国産だったが、今回開発した薬剤は純国産という点も研究の大きな特徴という。

研究チームはこの治療法を人に適用する治験を目指しており「研究成果が実用化されれば、進行がん患者に対する新たな治療の選択肢となる」としている。

品川氏出馬明

任期満了に伴い来年4月13日告示、同20日投票で現行われる郡山市長選で、現職の品川萬里氏(79)が3期目は5日の12月市議会一般質問で立候補の意思を問われ「市長として職務に専念すべき状況で、現時点で出